

平成 21 年 4 月 16 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530514

研究課題名(和文) 夢について親子で話すことの発達の意味をさぐる

研究課題名(英文) The developmental meanings of parent-child conversation about their dreams.

研究代表者 麻生 武 (ASAO TAKESHI)

奈良女子大学・大学院人間文化研究科・教授

研究者番号：70184132

研究分野：教育心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：夢、エピソード記憶、親子の会話、架空世界、夢についての認識

1. 研究計画の概要 本研究の目的は、夢話りの豊かな教育的機能を再発見するために、夢に関する親子の会話や、今日の子どもの夢理解のあり方などについて組織的に探究することにある。

2. 研究の進捗状況：(1)夢についての親子の会話の分析：幼稚園年長児・小学校1年生・小学校3年生の親子の約計50ペアに夢についての会話を10分ほど自由に行ってもらい、子どもの性別や学年、親子の雰囲気などでいかに会話に変化があるかを調べた。この研究に関しては、京都国際社会福祉センター紀要に、倉中晃子との共著論文として掲載した。(2)大学生への最年少時の夢についてのアンケート調査：大学生に一番幼いときの出来事の記憶と一番幼いときにみた夢の記憶とをアンケート調査を2研究行った。1度目の研究は2008.3のが発達心理学会で覚前・麻生でポスター発表を行った。第2弾の調査研究に関しては、現在データの分析中である。(3)幼稚園児の夢理解の実験的研究：幼稚園児が「夜布団に入らなかったはずなのに自分が動物園にいる」といった不連続体験をしたとき、その体験を果たして“夢”と名付けることができるのか、また夢の“因果性”“共同性”“フィクション性”について子どもたちがどのように理解しているのか2008.3の発達心理学会で吉良・麻生でポスター発表を行った。(4)大学生20名にインタビューを行い大学生の夢理解に関する研究も滝田景子との共同研究を現在行っている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している：今回の科研の核となる研究をすでに紀要論文としてまとめたことがその理由である。調査研究と

実験的研究に関しては、最後の詰めがまだなされていないが、今年遂行できる目処が立っている。

4. 今後の研究の推進方策

幼稚園児に対する実験的研究と大学生への調査研究とをそれぞれ論文化することが課題である。4年目の最後には冊子体で科研の報告書を作成する計画である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文・著書論文] (計 2 件)

- ① 倉中晃子, 麻生武「夢をめぐる親子の会話」京都国際社会福祉センター紀要「発達・療育研究」22, 63-81, 2008, 査読無
- ② 麻生武「「靈魂」発見のプロセスについて：『死者のゆくえ』を読んで」小路田泰直(編著)「死の機能 前方後円墳とは何か」岩田書院 171-196, 2009, 査読無

[学会発表] (計 4 件)

- ① 麻生武「夢について親子で話すことの発達の意味」2007.9.20 日本心理学会, 2007年9月20日 東洋大学
- ② 吉良尚子, 麻生武「子どもの夢概念」2008 日本発達心理学会, 2008年3月21日, 大阪国際会議場

ほか2件

[図書] (計 1 件)

- ① 麻生武 倍風館「発達と教育の心理学：子どもは「ひと」の原点」2007年296頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]